

三鷹駅北口パブリックスペース利活用社会実験2022の報告

これまでの経緯・背景

2017年策定の「三鷹駅北口街づくりビジョン」に位置づけられた「住む人、働く人が集い、心地よく過ごす街」を目指し、2019年から継続的にパブリックスペースを活用した社会実験を実施しています。

今回の実施にあたっては、多世代・日常的な利用可能性を検証し、民間主導の取り組みを支援する観点に加え、感染症拡大に伴う新しい生活様式に合わせた滞在の場づくりを目指して地域の店舗と調整を行いました。

2017年度

三鷹駅北口街づくりビジョン

三鷹駅北口地区の概ね10年後の目標像を描き、3つの視点から街づくりの方向性と考え方、その実現に向けた取り組みを示しています。

2018年度

三鷹駅北口街づくりラボ（三鷹ラボ）

既存の公開空地や道路空間などのパブリックスペースの活用について、講話や視察、ワークショップなどを通して、地域の事業者・住民・企業の方々とともに学びました。

社会実験検討

2019年度～

三鷹駅北口パブリックスペース利活用社会実験

三鷹駅北口周辺のパブリックスペースを活用した、地域連携によるまちづくり、にぎわい創出の検証を行いました。

2019

交通規制（車両通行止め）を伴う車道のイベントの利用（4日間）

2020・2022

歩道の余裕空間を活用した民間主導の日常的利用（2020年：47日間 2022年：52日間）

社会実験の継続 交通体系の検討

社会実験の実施概要

ENJOY! OPEN TERRACES 武蔵野 MUSASHINO

三鷹駅北口周辺を「歩行者を中心とするにぎわいのエリア」とするため、歩道上にテーブルやイスを設置して、街なかでのちょっとした休憩や、沿道飲食店を利用しやすい環境づくりに取り組みました。



開催趣旨

三鷹駅北口周辺のパブリックスペースを活用した地域連携によるまちづくり、新しい生活様式に合わせた多世代・日常的な滞在空間創出の検証

協力

駅前酒場易木屋・ニクータ“NICUTA”・三鷹駅北口街づくりラボ・三鷹駅北口商店会・八丁商和会・武蔵野市中央地区商店連合会（順不同）

実施期間

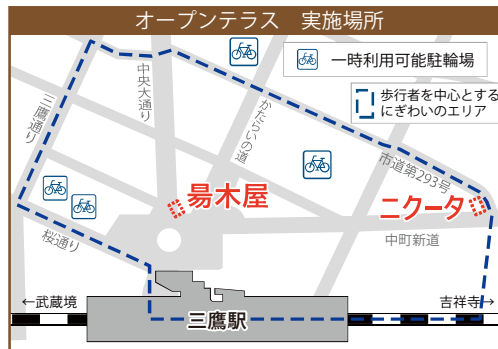
2022年4月22日（金）～6月12日（日）

実施場所

駅前酒場易木屋前、ニクータ前の歩道

実施内容

沿道店舗による歩道上へのカフェセットの設置・管理・運営



実施状況

▲ 位置図



▲ 易木屋前利用状況

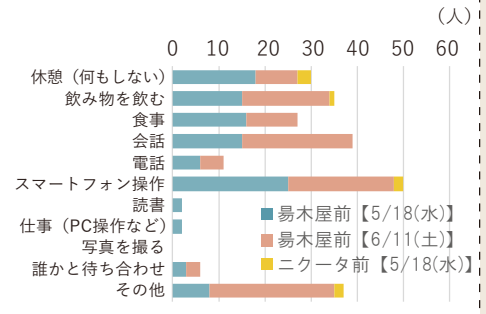
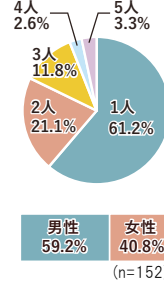
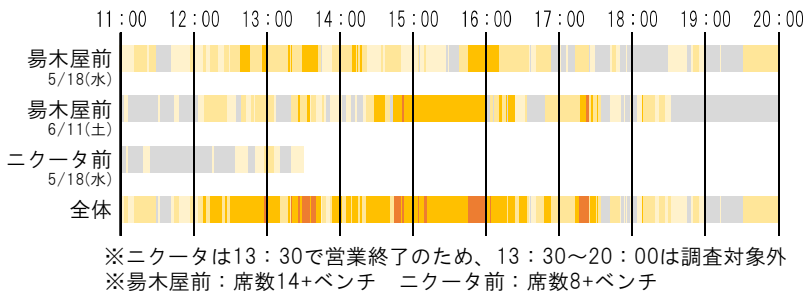


▲ ニクータ前利用状況

社会実験の結果

社会実験では、春の陽気な気候の中、ちょっとした休憩から飲食を伴う長時間滞在まで多様な使われ方が観察されました。自転車利用についてのご意見は頂きましたが、大きな問題は発生せず、期間を通じて順調に運用されました。

利用状況



時間別利用状況

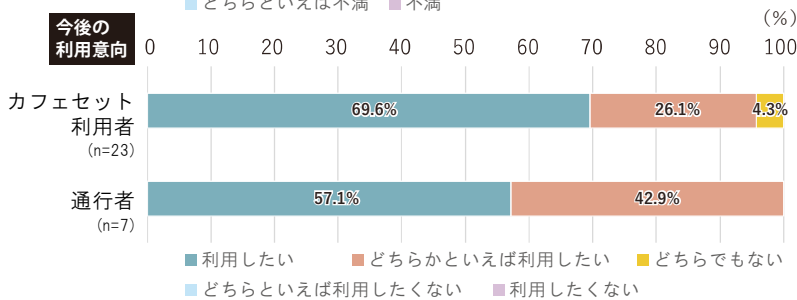
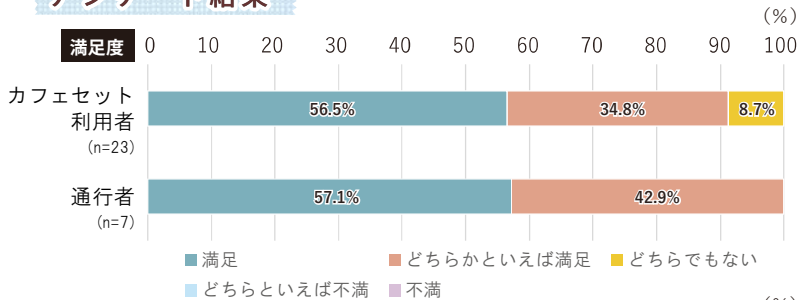


利用者の構成人数・属性

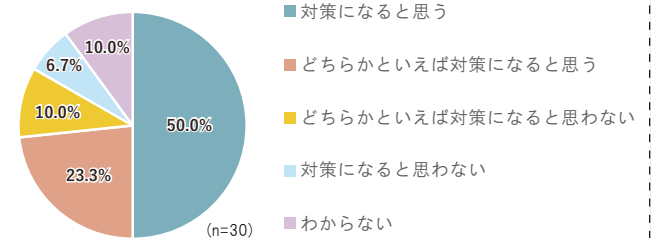
テラスでの行動

設置したカフェセットと近くのベンチの利用者を平日・休日（易木屋前のみ）に計測したところ、平日75人、休日77人の利用があり、スマートフォン操作や休憩、食事などの多様な行動が見られました。全体の平均利用時間は12分、10分未満の利用時間は63%を占めていました。利用者の中には定期的な利用やベビーカー、ペット連れの方などが楽しむ様子も見られました。

アンケート結果



オープンテラスの取り組みは、新型コロナウイルス感染症対策になるか



アンケート回答者の内、利用者の9割、通行者の全員が満足・今後も利用したいと回答しました。

また、7割の回答者が、オープンテラスの取り組みは新型コロナウイルス感染症の対策になると回答しました。

利用者の声

- ・開放感があり、居心地が良い。
- ・5月の陽気で気持ちの良い時間を過ごせた。
- ・ただの道だったが、オープンテラスがあることで街に潤いを感じられる。
- ・街全体に連続的にオープンテラスがあると良い。
- ・自転車と歩行者が輻輳して危ない。

参加店舗の声

- ・車いすやベビーカー利用の方にも好評だった。
- ・テラス席が満席になる時間帯もあり、売り上げに一定貢献したと感している。
- ・日差しが強い時間帯は利用されていない印象だった。
- ・コロナ禍で人流に変化が生じており、費用対効果等、十分な検証が難しいように感じる。

今後の事業実施に向けて

三鷹ラボの成果や2019年・2020年・2022年の社会実験結果を踏まえ、今後市では、地域の企業や団体によるパブリックスペースを活用した事業展開をサポートするとともに、持続可能な仕組みづくりや新たな利活用可能性等を検討していきます。

引き続き、目指すべき街の姿の実現に向けて、街に関わるあらゆる方々との一層の連携を図り取り組んでまいります。

